コンコルソ略解

此處で云ふコンコルソは競演會又は競技會の意である。伊太利を中心とする歐洲の斯界が急速に發達を見たのは全く此コンコルソの力によつたのである。コンコルソには作曲方面と演奏方面との兩樣がある。時には兩樣共同一の主催者に依つて行はれる事もあるが近頃では大方別々に行はれて居る樣である。從つて茲にも兩方面に分けて說く事にしたいと思ふ。

◎作　曲　方　面

演奏方面の第一次コンコルソが千八百九十二年に行はれた事は次項に記すが此時のコンコルソは作曲方面のそれをも含んで居りムニエルがマンドリニストとし且作曲家として金牌と賞狀とを得た。

此當時から暫くの間は作曲コンコルソは演奏コンコルソと同時に行はれて居た樣である。

然るに時が經つに從つて作曲コンコルソは別個に行はれる樣に成つた。それは何故であるかと云へば一つには作曲コンコルソは演奏コンコルソと異なり特に會場を設ける必要がない。即ち應募者が主催者に應募曲を提出し、主催者側は審査員が之を鑑査して等級を定め、發表するのであるからわざわざ會場を設ける事を要せぬのである。のみならず演奏方面のコンコルソは或日を限り之を行ひ演了後直ちに結果を發表するのであるが、作曲コンコルソの方は當日に應募曲を提出させて、其日に結果を發表する事は事實上困難である爲に應募曲は前以て主催者に送らせる事に成る。從つてコンコルソの當日は單に結果を發表するに過ぎない事に成る。

今一つはマンドリンやギターの音樂を主體とする音樂雜誌、例へば「イル・プレットロ」や「イル・マンドリーノ」が作曲コンコルソを主催する樣に成つた。雜誌社が作曲コンコルソを主催する時は當選曲を販賣する事が出來ると云ふ非常に好い條件がある爲に必然的に行ふ樣に成つたのであるが之が爲に演奏コンコルソを行ふもの

は作曲方面には何も手出しをする必要がなくなつたのである。又應募者にしても單に金牌などを授與されるよりも、賞品賞金と共に自作を發表してくれる雜誌社のコンコルソに應ずる方が經濟的に利益であり、且自己の名を普くする上にも得策であると考へる樣に成つた。

斯くして今日では作曲、演奏兩方面のコンコルソが全く別個に行はれる樣に成つた。

さて作曲コンコルソが斯界の爲に如何なる貢獻をなしたかと云へば、若しコンコルソがなかつたならば尠くとも數年前に於てマンドリンオーケストラ曲の如きは行き詰つて仕舞つたに違ひない。勿論作曲コンコルソが續けられて居る今日ですら、曲は行き詰つた感があるがコンコルソがなかつたならば尙一層早く行き詰つて居る筈である。それだけ此コンコルソは斯界の爲に大きい貢獻をなしたと云ふ事が出來るわけである。

マンドリンオーケストラ曲の如き、今日私達が手にして同感し得るものゝ半數はコンコルソ應募の當選曲である。

此頃大分演奏されるデヤチント・ラヴイトラーノの序樂「ローラ」は千九百二年「イル・マンドリーノ」主催のコンコルソに二等賞を捷ち得たものであり、御馴染のアマディの「船人の組曲」は千九百九年「イル・プレットロ」の第二回コンコルソに一等當選曲であり、之も屢々演奏されるマネンテの「メリアの平原に立ちて」が次席である。

千九百十年の「イル・プレットロ」第三回コンコルソには其D類、即ちクラシック曲のマンドリン合奏用編曲にチマローザの「オラツイオ兄弟とクリアツイオ兄弟」がポーリによつて編曲され特別金牌を授けられた。近くは千九百二十一年同じ主催者のコンコルソにファルボの「ニ短調の序樂」が一等に推され、翌二十二年にはファルボはオーケストラ曲で「組曲、西班牙」と四部合奏曲と双方共一等に當選するの名譽

をもつた。

此他アマディの「プレクトラム」、ボッタッキアーリの「選擧」ファルボの「田園組曲」、ヴォットの「過去の追憶」、ボルタ編曲のモツアルトの「クレメンツア・ディ・テイト」、カリのガヴット「カレス」、カンナの「アンダルシア」、カウベレッテイの「序樂」、ラウダスの「希臘風主題に據れる序樂」（又「希臘ラプソディイ」とも云ふ）マネンテの「小英雄」、マリネッリの「小夜樂」、ラウダス編曲のモツアルトの「フイガロの結婚」、レデギエーリの「西班牙幻想曲」、ルスパンテイーニの「セギディリア」、カンナの「村祭」、カッペレッテイの「フローラ」等は孰れも「イル・プレットロ」のコンコルソに當選したものである。

コンコルソに於て其目標とする曲はオーケストラで序樂、組曲の二種が多い。其他には四部合奏曲（純粋のプレクトラム四部とギターを含む四部）マンドリンギターの二部曲、ギター獨奏曲、マンドリン獨奏曲等である。（アルナオのギター獨奏

曲「ヴェネツイアの一夜」の如きは一等當選曲である。）

而も其内最も重要なものはオーケストラ曲であるが序樂組曲の二つに限られる爲に自由な作品が現はれないのは遺憾である。之は將來形式を問はぬオーケストラ曲の一項を增して貰ひたいものである。

本邦に於ても最近私達のオーケストラが第一回の作曲コンコルソを主催した。第一回の事でギターマンドリンの兩獨奏曲に限つたが將來は範圍を擴げる心算である。

作曲コンコルソは云ふ迄もなく過去、現在、未來を通じて最も重大な貢獻を斯界に與へるものであるが、主催者は常に公正な立場にあつて貰ひ度い。雜誌社が主催するからと云つて商賣本位に成つては前途が甚だ危ぶまれる。

作曲方面のコンコルソに就いては之以上筆を進める要を見ない。

◎演奏方面

演奏コンコルソは大合奏、小合奏、獨奏の三通りに對して行はれる。

事新しく申す迄もないが伊太利を中心とする歐洲のマンドリン界が僅々數年ならずして隆盛を來したのは全くコンコルソの力であつた。そしてムニエルの歿後漸次衰傾を來し遂に世界大戰に遇つて合奏團の四散を見るに至つたのも一面にコンコルソ不振の結果と云ふ事が出來る。然し茲にコンコルソの効果や影響を述べる事は差控へる。何となれば我プレクトラム樂器愛好家はすでに充分此事を知り悉されて居る筈だからである。私は記錄によつて知り得られるだけのコンコルソを順次御紹介するに止めやう。

第一次コンコルソは誰も知る如く千八百九十二年ゼノヴ博覽會が開催されたのを期として初めて企劃された。此時のコンコルソが如何なる規模に於て開かれたと云ふ事は今日明でないが只我々の忘る可らざる事は彼のムニエルが出場してマンドリ

ニストとし且作曲家として金牌と賞狀とを得た事、合奏團では有名なる皇后マルゲリータ陛下合奏團が優勝せる事、ベルレンギが其教則本を提出して銀牌を得た事である。

第二次のコンコルソとして記憶されるのは千八百九十八年トリーノ市の萬國博覽會が開催されたのを期として開かれた。ムニエルは再び金牌を捷ち得た。之は記錄によつたので果して之が第二回目であるか又は此以前に一回なり二回なりコンコルソが開かれたかは不明である。

記錄は再び八年後に飛ぶ。千九百六年六月モナコに開かれたコンコルソ、インテルナツイオナーレ(萬國競技會)がそれである。此コンコルソは史上に見える中の最大規模なもの丶一つで主催者はモナコ公の保護下にある合奏團「エストウディアンティイナ・モネガスク」で名譽委員はモナコ市長、大官、外國交際官等を網羅し名譽委員にはマスネーとサンサエンズとが佛國から來ると云ふ有樣であつた。そしてム

ニエルは審査員として伊太利から派遣された。此時參加した合奏團は隨分多かつた樣であるが不幸にして明確に數を知ることは困難である。然るに此同じ年コモに於て再び大規模なコンコルソが開かれた。此頃からは記錄に稍詳細に殘つて居る。此コンコルソには二十二の合奏團が參加した。主催者たるコモの合奏團は之等參加團體を人數の多寡によつて(二十人を限界として)二分し第一部即ち二十人以上の團體には課題曲としてジョアキノ・ラッフ作大序樂「ネルラ・セルヴ」中の「ドリアーデの舞」を、第二部(二十人以內)にはマウリツイオ・モスコウスキー作「西班牙舞曲」を提出した。同時に大合奏のみならず四部合奏の競技をも行ひ十六組が爭つたのであるが此四部合奏は獨立した團體は尠く、多くは各合奏團の中から代表者を出して競演せしむるのが例である。

試に此時の參加團を擧げて見やう。

第一部は

伊太利　アレッサンドリナ。「ソチエタ・オイテルペ」　三十五人
クレモナ。「チルコロ・マンドリニステイ」　二十七人
リヴオルノ。「チルコロ・ヴエルデイ」　三十一人
パヴイア。「チルコロ・イン・アルテ・カリタス」　三十人
トリーノ。「スクオーラ・アモル」　四十二人
ヴエローナ。「クラブ・ヴエロネーゼ」　二十五人
ヴイチエンツア。「チルコロ・マンドリニステイ」　二十七人
ベリンゾナ。「チルコロ・オイテルペ」　二十七人
ルガノ。「チルコロ・ルガネーゼ」　三十人

瑞西　ブストアルシツイオ。「ソチエタ・ブステージ」　十九人

同　「エストウデイアンテイナ・ブステーゼ」　十五人

尙第二部は

伊太利　エムポリ。「チルコロ・ヴエルデイ」　十六人
ジエノヴ。「クラブ・ジエノヴエーゼ」　十七人
レニアーノ。「チルコロ・ストウデイオ」　十九人
リヴオルノ。「チルコロ・フラテルリ・リツチ」　十六人
ローデイ。「チルコロ・マンドリニステイコ」　十九人
ミラノ。「ソチエタ・バイジエルロ」　十九人
モルタナ。「チルコロ・マンドリニステイ」　十六人
ヴオルトリ。「チルコロ・レヂーナ・マルゲリータ」　十六人

アルヂエリア(佛領)　ボーン。「ソチエタ・ローロール」　十九人
トロイエ。「エストウデイアンテイナ・トロイエンヌ」　十六人

墺國　トレント。「クラブ・アルモニア」　十九人

此第一部の内婦人を含まぬ團體は僅に二團體に過ぎず他は皆男女の奏者をもつて

居たのである。そして指揮者をもたぬものは一團體であつた。茲に注意すべきは非常に廣く賞を呈して居る事と尙力量に依て豫め一つの部を三種に分つて居ることである。

翌千九百七年五月十九、二十の兩日佛國ベジエにコンコルソが開かれた。此コンコルソは單にマンドリンギターの爲に開かれたのでなく、吹奏樂隊や聲樂團體をも加へたらしいが明瞭には判らない。判つて居るのはマンドリン獨奏競技の爲に五百法乃至五十法の賞が懸けられたと云ふことだけである。

同年六月には瑞西バエルヌに合奏團のコンコルソがあり一等は「チルコロ・カルメン」二等はローサンヌのコラリアが推された。

此年はコンコルソ當り年とも云ふべきでクレモナの「チルコロ・マンドリニステイ」(此團體は有名な優秀團體で名は完全に云へば「チルコロ・マンドリニステイ・エ・マンドリステ」即ち男女の合奏團體と云ふべきである)が主催となり九月コンコルソを開く豫定であつたが後に記す樣にヴイチエンツアに開かれる事に成つた爲に中止した。此團體がコンコルソを主催するのは此時が第三回であると云ふから勿論記錄にはないが既に二回開催されて居るわけで從つて記錄に載つて居ないコンコルソが隨分多數にあつた事が推測される。此九月には佛領亞弗利加アルヂエリアのボーンの合奏團「ローロール」がコンコルソを開く筈であつたが之は中止になつたらしい。そして此年を代表するコンコルソがヴイチエンツアの「チルコロ・オイテルペ」に依て主催された。此團體は創立十週年に當るので此企てをしたものらしい。期日は九月十四、十五の兩日で伊太利、瑞西、モナコの團體が二十一團體參加した。課題曲は此團體の會長アドルフオ・ムツトニーニ伯作の「マンドリン讃歌、オイテルペ」であつた。(此曲は雜誌イル・プレツトロ社から發行されて既に本邦のマンドリニストにもよく知られて居る)殘念にも優勝團體が判らないが茲に注意すべきは有名な「チルコロ・レジーナ・マルゲリタ」即ち皇后「マルゲリタ陛下團」を名乘る團體が

此コンコルソに二つまで加はつて居る事である。即ちマンドリンの最初の援護者たる陛下(現皇太后)を敬慕して此名を冠する團體が決して一つではなかつたと云ふ事を知つて戴きたい。此時參加した此名の團體はフェルラーラ、及びヴォトリのそれであつて彼の有名なるはフイレンツェのそれである。そして此所謂元祖のものは「王室」の文字を冠して居る。

翌千九百八年は記錄上では甚だ不振な年であつた。之も然し記錄に載つて居ないものがあるかも判らない。

千九百九年五月三十、三十一兩日バヴィアの「イン・アルテ・カリタス」はコンコルソを主催した。そして人數によつて參加の十四團體を二分した爲第一部に屬するものはコモの「フローラ」、ヴイチエンツアの「オイテルペ」、ヴオトリの「チルコロ・レヂーナ・マルグリータ」に過ぎなかつた。此時の記錄は甚だ詳細に殘つて居る。

第二部合奏團競技三十日九時半より二時迄。

◎課題曲　アレッサンドロ・サヴォイア作「アンシエ」。

◎隨意曲　次記合奏團名の下に記す。

一、ステルラ・ポラーレ(ベルガモ)(十八人)歌劇「トラヴイアータ」前奏曲及、拔萃曲(ヴエデイ作。)

二、ソチエタ・ブステージ(ブスト・アルシッイオ)(十四人)「ト調の序樂」(ド・ジョヴンニ作。)

三、チルコロ・アルバレーゼ(チエノヴ)(十九人)「子守歌」(チー・アー・ブラッコ作。)

四、エストウデイナ・チエノヴエーゼ(チエノヴ)(十三人)「ト調の四部曲」(ムニエル作。)

五、チルコロ・ヴエルデイ(リヴオルノ)(十五人)「ベルギユント」一、二章(グリーヒ作。)

六、ソチエタ・バイジエルロ(ミラノ)(十九人)歌劇「皆假面」序樂(ペドロッテイ作。)

七、チルコロ・ドニッエッテイ(ボンテ・デイノッサ)(十二人)歌劇「デステイーノの力」綜合曲。

八、チルコロ・リクレアテイーヴオ(サムビエルダレナ)(十九人)序樂(フイチニ作。)

九、オルケストリーナ・アルレアンツア(サロンノ)(十二人)歌劇「リゴレット」四部曲。

十、チルコロ・アルモニア(ヴエロナ)(十八人)歌劇「ジョヴンナ・ダルコ」序樂(ヴエルデイ作。)

第一部合奏團競技(三十一日八時半より。)

◎課題曲　アレッサンドロ・サヴオイア作「カルマ」夜曲。

◎隨意曲　次記

一、チルコロ・フローラ(コモ)(二十三人)「第一交響樂三四章」(ベトーヴエン作。)

二、チルコロ・オイテルペ(ヴイチエンツア)(二十四人)歌劇「アルヂエリアの伊太利婦人」序樂(ロッシーニ作。)

三、チルコロ・レジーナ・マルゲリータ(ヴオトリ)(二十三人)歌劇「ドン・ジョヴンニ」序樂(モツアルト作。)

尙此夜八時から演奏會を開き參加團體全部に主催の「イン・アルテ・カリタス」團が加つてサヴオイア作「マルチア・ムリエブレ」を作者の指揮で第一に演奏した。此人數五百人と記される。第二に主催團體がボイト作「メフイストフエレ」拔萃曲を奏し第三に優勝團體が演奏し最後に再び大合奏でアマデイの「ブレクトラム」をアレッサンドロ・ヴイッツアーリの指揮の下に演奏した。此大合奏の練習としては同日四時から練習したと云ふ。此コンコルソに於ける審査員はカルロ・ムニエル、アレッサンドロ・サヴオイア、ヴイットリオ・アリア・ヴアンツオ、フランコ・ヴイッタデイーニ、アレッサンドロ・ヴイッツアーリの五名で場所はアジロ・ガッツアニガの大ホー

ルであつた。

斯くて勝者は次の如く決定した。

第一部　一等。チルコロ・フローラ賞金五百リラ及銀牌

二等。なし

三等。チルコロ・レヂーナ・マルグリータ賞金百五十リラ

四等。チルコロ・オイテルペ金牌

第二部　一等。チルコロ・アルモニア賞金二百リラ

二等。チルコロ・ヴエルデイ同百リラ

三等。ソチエタ・バイジエルロ金牌

四等。チルコロ・アルバレーゼ

賞の提出は斯くの如く廣範であるが然し審査は隨分嚴密で二等賞を得るだけの力を認められたエストウデイアンテイナ・ヂエノヴエーゼは隨意曲の時間が規定より

十分間長かつた爲オミットされ、五等賞をとるべきステルラ・ポラーレも亦同一の理由で落された。

此コンコルソと全く期を等しくして佛國ブーローニユ・スユル・メルの「オカリナ・マンドリン合奏團」(指揮者はお馴染のカミーユ・カンナ)主催の下に大コンコルソ開かれ三十の合奏團と二十五の四部團と五十人の獨奏者が參加した。此團體を國別にすると伊太利(二)、瑞西(二)、白耳義(二)、英國(一)、アルジエリア(一)、モナコ(一)、佛國(二十一)であつて高賞は伊太利の合奏團が捷ち得たのみならず獨奏者としてもローマのブブリオ・コンテイと云ふ人がマンドリニストとして「フアウスト」拔萃曲(サラサテ編)とレオナルデイ作「アンヂエスとデモンス」とを奏して一等を又トリノのチエザレ・ビアンコなる人が「セントポールの印象」及「奮起」にギタリストとして一等を得た。つまり何から何迄伊太利にもつて行かれたのであつた。

同年十月二十四日ミラノの「ソチエタ・ペルガマスキ」はコンコルソを主催したが

之は僅に七團體が參加したのみで課題曲は一部がデ・マルテイノの「月は呀えき」第二部がアマデイの「ホ調のポレロ」で隨意曲にはあまり注意すべきものがない。審査員中にはアマデイ一人が光つて見えた。そして結果は一部ミラノの「ソチエタ・バイジエルロ」二部にもミラノの「メイ・ブロン」が一等に當選した。

翌千九百十年五月クレモナの有名な合奏團「チルコロ・マンドリスティイ」が計劃したコンコルソこそは最大規模なもゝの一つであつた。合奏團の名を一々擧げる事もあまり煩雜だから都市名と數だけを擧げて見やう。「伊太利」「ベルガモ」(一)、ジエノヴ(三)、リヴオルノ(一)、ローデイ(一)、コモ(一)、ミラノ(三)、モンテイチエルリ(一)、オルツイヌオーヴイ(一)、ピーザ(一)、サンレモ(一)、トリーノ(一)、ヴイチエンツア(一)、カルラーラ(一)、「希臘」アテン(一)、「佛國」マルセーユ(一)、モナコ(一)、「墺太利」トレント(一)、ウキンナ(一)、「瑞西」ツリーゴ(二)の二十四團體で之を演奏技能及人數により五部に分ち第一部六、第二部三、第三部六、

第四部四、第五部五の團體數として覇を爭つたわけである。結果は次の如く決定した。

第一部一等　希　アテン「マンドリナータ・アテニエーゼ」
同　伊　ジエノヴ「エストウデイアンテイナ・ジエノヴエーゼ」
同　佛　マルセーユ「エストウデイアンテイナ・プロヴエンサール」
二等　伊　コモ「チルコロ・フローラ」
三等　同　ヴイチエンツア「チルコロ・オイテルペ」
第二部一等　同　リヴオルノ「チルコロ・ヴエルデイ」
二等　同　トリーノ「フイラルモニカ」
二等　同　ローデイ「チルコロ・ローデイ」

處で以上に記したるは演奏の競技ではなくて實に樂譜の讀方の成績である。即ち新しく目にした樂譜をどの程度に理解しどの程度に讀むかと云ふ試驗であつて演奏

の成績は更に次の如き結果を示した。

第一部一等　希　アテン「マンドリナータ・アテニエーゼ」
同　佛　マルセーユ「エストウデイアンティナ・プロヴエンサール」
同　伊　ジエノヴ「エストウデイアンティナ・ジエノヴエーゼ」
同　同　コモ「チルコロ・フローラ」
三等　同　ヴイチエンツア「チルコロ・オイテルペ」
第二部一等　伊　リヴオルノ「チルコロ・ヴエルデイ」
二等　同　ローデイ「チルコロ・ローデイ」
二等　同　トリーノ「フイラルモニカ」

此二種の成績を綜合して最後に結審を下された。

「第一部」

第一等　大賞七百リーラ。　希「アテニエーゼ」

第一等　二席三百リーラ。　伊コモ「フローラ」
第二等　二百リーラ。　伊「ジエノヴエーゼ」
第二等　二席百五十リーラ。佛マルセーユ「プロヴエンサール」

「第二部」

第一等　三百リーラ。　伊リヴオルノ「ヴエルデイ」
第二等　二百リーラ。　伊ローデイ「ローデイ」
第三等　百リーラ。　伊トリーノ「フイラルモニカ」

即ちラウダスの率ゆる希臘の「アテニエーゼ」は遂に第一位の力を認められたのである。

第三部以下第五部迄は單に演奏競技だけを審査してそれぞれ賞を呈した。

此他四部合奏、三部合奏等の競技をも行つたのであるから事實競技は非常に大規模なものとなつて居るのである。審査員はムニエル、ファンタウッツイ、モルラッ

キ、アマデイ其他が推された。すべてから見て大コンコルソの影響は偉大なものであつた。

かねて四五年前から千九百十一年トリーノに開かれる萬國博覽會に於てコンコルソを開催する計劃は立てられて居たがクレモナのコンコルソ終了後愈々翌十一年には實行の事が決定發表された。そして一等千リーラ、二等五百リーラ、三等二百五十リーラの賞金迄定められたのである。

斯くて千九百十一年は來たがコンコルソ開催に先立つて彼のムニエルは悼しくも黄泉の客となつて仕舞つたのである。

トリーノのコンコルソの前六月カルラーラの合奏團「モナコ」主催のコンコルソが開かれたが參加團體僅に四でコンコルソらしい事は出來なかつた。參加團體が少かつた爲課題曲隨意曲共に二曲宛を出した事が强いて云へば特色とも云へやう。

斯くてトリーノに於ける大コンコルソは愈々八月十三、十四、十五の三日間開か

れた。參加團數三十二而も伊太利に對し外國十九と云ふ盛況は從來見ざる所であつた。即ち伊ではミラノ(四)、ジエノヴ(二)を初めクレモナ、イブレア、リヴオルノ、モンテイチエルリ、ピーザ、ピストイア、サンレモ各一であり他國では佛、墺、瑞、希、佛領アルヂエリア等で他國の内有名なものは希の「アテニエーゼ」、アルヂエリアの「ルネツサンス」、瑞西の「ヴリーゴのクラブ」等であつた。結果は

第一部　一等(千リーラ)　伊、クレモナ「チルコロ・マンドリニステイ」

二等　伊、リヴオルノ「ヴエルデイ」

三等　伊、ヂエノヴ「ジエノヴエーゼ」

四等　白、アンヴエルス「エクセルシオール」

第二部　一等　伊、ヂエノヴ「アルバレーゼ」

二等　サンライエンヌ「ステフアノア」

第三部乃至第五部も各々三位迄賞をうけた。茲に附加へておきたいのは此時

のコンコルソは單にマンドリン合奏團のみならず吹奏樂團、聲樂團等の競技を含まれて居た事である。そして會場は博覽會の内に設けられた。

之よりさき佛國モントリールに於ては六月十八日、十八團體參加のコンコルソを開き從來のコンコルソにあまり名を見せぬ佛國團體が技を競ひ、又トリーノのコンコルソと時日を等しくして八月十三、十四兩日には佛國ロザンナに於て規模から云へば未曾有の大コンコルソが開かれ伊太利コモの「フローラ」佛國マルセーユの「プロヴエンサール」等が高賞を得た。此コンコルソは其費用の莫大なりし點と參加團の異常に多かつた點に於て稀に見る偉大なものであつたらしいが惜しい哉記錄が明瞭でない。

翌千九百十二年にはベルガモの合奏團「ベルガマスカ」が主催となり九月十八、九日の兩日、合奏團、獨奏者、四部合奏のコンコルソを決行した。課題曲は次の通りである。

合奏。第一部　モルアルト作歌劇「フイガロの結婚」序樂

第二部　ファルボ作「ニ短調序樂」

第三部　マネンテ作「小英雄」序樂

第四部　A、マリネッティ作「小夜樂」

B、グイディチ作「ミヌエット」

第五部　課題曲なし。

四部合奏。

甲（マンドロンチエロ又はリウトを加へたるもの（モツツアルト作「小夜樂」中一、四章

乙（ギターを加ふるもの）

バール作「カツペルラの教師」序樂

ギター獨奏。

デ・マルテイノ作「ヴエルソ・イニオーテイ・リディ」
マンドリン獨奏。
アモローゾ作「演奏會用ポルカ」

參加團體は十九、四部合奏は甲四、乙八（多くは合奏團體の内より出る）であつた。斯くして合奏團では第一部がリヴォルノの「ヴエルディ」を初め五團體、第二部がトリーノの「フイラルモニカ」以下三團體、第三部がヴエロナの「オルケストラ・ア・プレツトロ」以下四團體、第四部がカサルマジョーレの「カサレーゼ」以下四團體、第五部がミラノの「ヴエルディ」以下三團體を選に入れ、四部合奏では甲に於てクレモナの「ガエタニ四部團」を始め四團體を、乙に於ては一、二等受賞なしとして三、四等をのみ選定し、獨奏はギターにトリーノのレイネリを初め五人、マンドリンにジエノヴのダイヴロを初め五人に賞を授けた。

斯くして此コンコルソも十二年度のマンドリン史を飾つて終つたが尙此年五月に

は巴里に於てコンコルソが開かれクレモナのチルコロは又しても首位を占めた。然し此コンコルソには種々規則違反ありとして或合奏團の如きは憤慨のあまり內情を公表した樣な苦々しい事もあつた。千九百十三年度にはヂエノヴの合奏團「ジエノヴエーゼ」主催で六月頃コンコルソを開いたらしいが記錄不備で眞相を知る事が難しい。殊にこのコンコルソは翌十四年夏に延びた樣な形跡もある。

千九百十四年から十九年に至る六年間は世界大戰の爲全く斯界は沈默に陷つて了つた。合奏團は多く解散して再び往時の盛況を見るかどうかを疑はれた。

然し案ずるよりは生むが易く戰爭終了と共に合奏團は漸く再び組織され初めた。從つてコンコルソも亦實行される光明が見え初めた即ち千九百二十年春にはリヴォルノの「ヴエルディ」主催でコンコルソの計劃が樹てられた。然し參加團あまりに尠少の爲不幸中止の已むなきに到つた。同年白耳義ブラツセルの「エストウデイアンテイナ・ブラツセル」（此指揮者はシルヴイオ・ラニエーリである）がコンコルソを主

催した。然し果して實行されたか否かは不明である。合奏團のコンコルソを開くには戰後時期あまりに早しと見た雜誌「イル・プレフトロ」は四部合奏及獨奏のコンコルソを開いた。

千九百二十一年に於てはアルサスのミュルハウゼンに小コンコルソ開かれ九團體が之に參加した。八月十四日のことである。之より遡き六月二十六日にはローマ市のマンツォーニ劇場に於てローマ市の合奏團だけのコンコルソが施行せられた。參加團體は十個四等迄授賞された。同年十月八九兩日コモの「フローラ」主催で「ジェスエ・カルドウツチ館」にマンドリンに關する大會合を行ひ其第二日に於ては八個の四部合奏團のコンコルソを行つた。そして十二月二日ローマに於て再びローマ市だけの合奏團コンコルソを開催して之を此年の終りとした。

千九百二十二年度に於ては上半期には殆んど記すべき運動を見る事が出來なかつたがローマの「イル・ピッコロ紙」主催の下に九月二十八日から十月一日に亘る全伊

太利の大コンコルソが開かれて稍面目を新にした感がある。とは云へ戰爭の打擊は參加團體僅に九、四部合奏團僅に二と云ふ狀況であつた。僅に九團體であるが而も從來の習慣上之を五部に分つた。

課題曲　第一部。ファルボ作「西班牙組曲」
　　モツアルト作「コジ・ファン・トウツテ」序樂
　　第二部。モツアルト作「フイガロの結婚」序樂
　　メラナ作「オマツジョ・アル・バツサート」序樂
　　第三部。カンナ作「村祭」組曲
　　マネンテ作「メリアの平原に立ちて」序樂
　　第四部。マルテイ作「砂漠の沃地にて」間奏曲
　　チマローザ作「オラツイオ兄弟とクリアツイオ兄弟」序樂
　　第五部。マネンテ作「秋の夕暮」幻想曲

ベトウヴエン作「第二シンフォニー」中のスケルツォ

四部合奏。ファルボ作四部曲

課題曲二曲宛を選んだのは隨意曲を出さなかつた事に因るらしい。同時に此コンコルソは雜誌「イル・プレットロ」が密接な關係を持したもので課題曲の全部は同誌發行の曲をあてゝ居る。

記錄は玆で止つて居る。そして只來年度に於て催さる可きコンコルソの計畫が發表された事を附加へたに過ぎない。

如上の記錄を通じて御斷りして置きたいのはコンコルソ參加團體を五部に分けた事である。單に五部と記したが事實第一部は最優良團體、第二部は優良團體、第三部以下五部迄は人數と技能によつて豫め區分をつけられて居るのである。此區別の是非等については別に說く人があらうと思ふ。

要するにコンコルソには大小規模があり又主催者が一つでない爲に同時に二つ以

上のコンコルソが重復する事も珍らしくない。

此以後の記錄については餘りに近い過去の事であるから記述の煩を避けやうと思ふ。伊太利を初め歐洲各地のコンコルソは賞が總花的になつて居る事が最面白くないと云ふ事を記して擱筆する。